

2019  
おもろ  
チャレンジ

## 日本におけるキャッシュレスの未来を考える

理学部 3年

吉元 史

スウェーデン、エストニア

2020年2月7日-

2020年3月5日



### 渡航概要と内容

スウェーデン、エストニア 両国を2週間弱ずつ滞在し、それぞれの国で博物館、図書館などの施設を回りながら現地の方々との交流、買い物などの生活を通して主にキャッシュレス周りのテクノロジーを体験した。

スウェーデンでは多くの方が聞き取りやすい英語を話してくれるものの、エストニアでは主に年配の方を中心として英語での会話が難しかったり、訛っているのか聞き取りにくい場面がいくつもあった。

スウェーデン北部のキルナという町では海外の銀行、クレジットカードに対応しているATMがなく現地の人しか使用できないSwish(日本の○○payのようなもの、現地口座が必須)と現金のみ対応しており、現金がたりなかったため買い物を諦めたこともあった。

冬に滞在したこともあり、昼の時間が短く、大雪が降ることがあったため、当初予定していたよりもずっと活動できる時間が短かった。

エストニアにてコロナウイルスの患者がバスターミナルからでたことを受け、当初予定していたナルヴィクでの滞在を取りやめた。

最後にスウェーデン・ストックホルムに滞在した際イギリスでアジア人が殴られる事件([https://news.tv-asahi.co.jp/news\\_international/articles/000178049.html](https://news.tv-asahi.co.jp/news_international/articles/000178049.html))が起きており、スウェーデンではそれほど人種差別主義者は多くないように思ったが、その対処としてできるだけヨーロッパ人と行動するように心がけた。

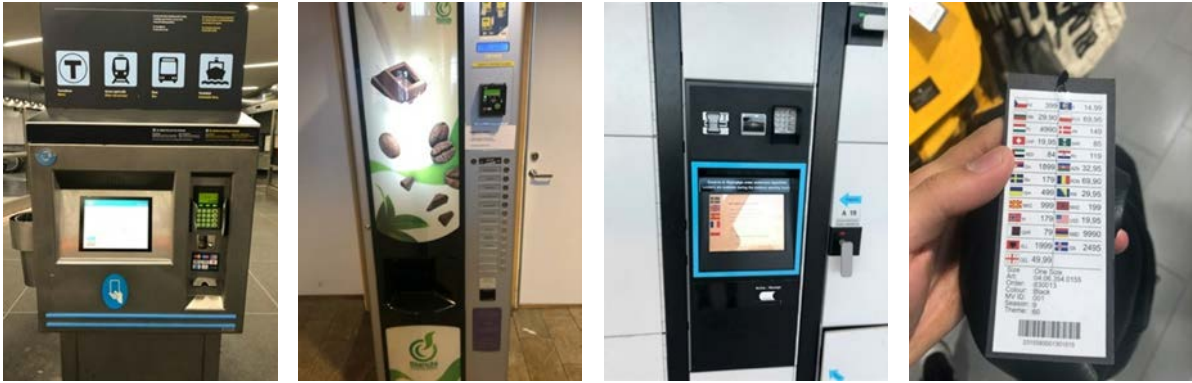


Swishのマーク

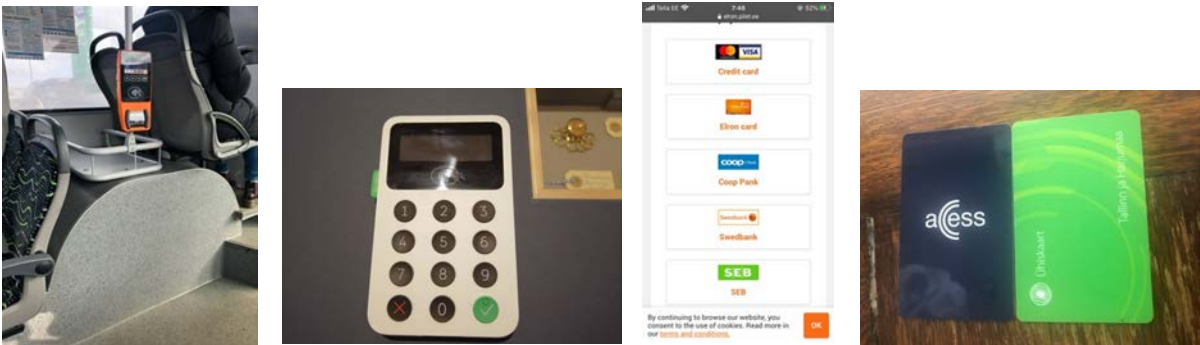
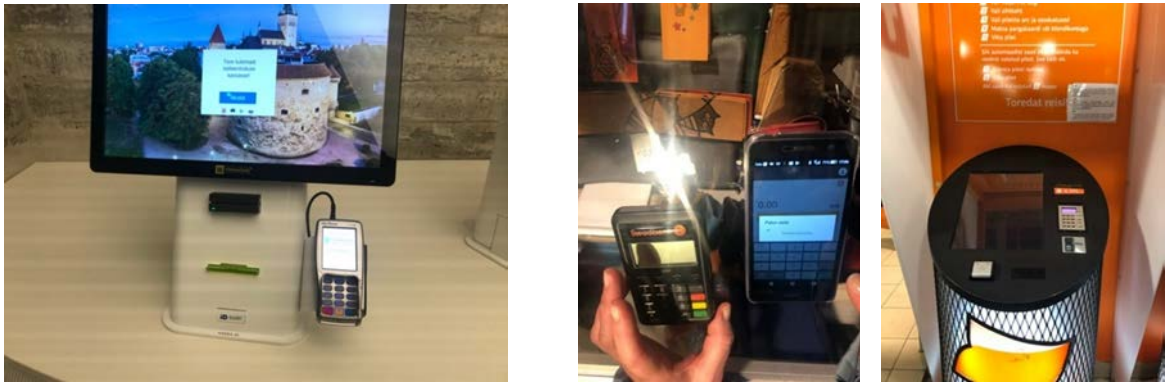
## 渡航を通じて感じたこと・学んだこと

今回の目的と合うように両国でクレジットカードを含むキャッシュレス決済が一切できない(現金のみ使用可)という店、バザーは見る限りなかった。またほとんどの自動販売機(チケット、切符、飲料)にはクレジットカードの機械が備え付けてあった。ファストフード店ではタッチパネル式で注文し、チップの入った番号表に店員が届けてくれるようになっていた。(他の欧米諸国でもそうなっているのかもしれない)

よく、日本では ATM が多くあり、現金の信用度が高いからキャッシュレス化が進まないという意見があるが、スウェーデン、エストニアにおいても都市部の ATM の数は多く、スウェーデンクローナ(SEK)、ユーロ共に信頼性は高い(特にユーロは流通量も多い)ことを考えるとこれは中国と対比しただけの一元的な考え方だと思った。両国で生活してみて、日本に比べて外国人と現地の田舎部に住む人に優しい国だと感じた。ヨーロッパの中ではシェンゲン協定に署名した国同士は国内のように渡航が可能である。また日本ほど人口密度が高くないので田舎では大手 ATM をはじめ、大規模なショッピングセンターなどが不足する。電車や決済のシステムを初めて使う言語や使用通貨が異なる人々も使いやすくなっていったと感じた。(電車の IC カードのシステム、クレジットカード機器の普及率)そしてこれが高いクレジットカード手数料などの明解なものを除いた日本でキャッシュレス化が進まない理由だと私は考える。日本では中国人観光客が多いこと、距離的なもの等から中国への旅行が多いことから中国との対比、中国人観光客への対応が主となりがちだ。(国内で wechatpay やアリペイが使えるものは多い)すると ATM の量であったり、現金の信頼性を理由だと捉える人々が多いのも頷ける。しかし、もし日本が多様な国々からの来訪者、国内のユーザーをターゲットにした場合、店員は英語や中国語(韓国語)を話せるだけ、独自規格である felica を用いた Suica 等を国内ユーザ向けに使うだけ(多くの外国人が駅で切符を買っているのを見かける)では不十分である。店員との会話を最小限にできるクレジットカードの非接触決済、Suica リアルカードへのチャージをインターネット上で多くの決済手段(クレジット、PayPal、amazon pay)に対応した形で可能にし、スマホとクレジットカード、Suica があればほぼ全ての店で決済可能になることを目指すべきだと思う。ただ、そのためには機械導入費がネックになってしまう。エストニアでは swedbank(北欧の大手銀行)の小型クレジットカード読取機(非接触対応)が小規模小売店で普及、国民の中でも swedbank のクレジットカードが普及しており、swedbank が牽引する形でクレジット決済が可能になっていた。日本でも air pay があるが、非接触に対応しておらず、サインやパスワードを求める際の会話は困難な場合も多い。



多くの自動販売機でクレジットカードが使用可能。(上、下)、多くの通貨での決済が可能(右上等)



路面電車内では Suica のようなもの、visa の非接触等が使えた。電車、バスの代金はネット上で購入可能。右上はそれぞれの国での交通 IC カード(左がスウェーデン、右がエストニア)

## 今回の経験をどのように今後生かしていくか

このレポートはおもろチャレンジの報告書であるが、現地で知り合い、連絡先のわかる友人がいるので彼らに聞きながら、またリサーチの量を増やしながらか、自分なりの今回の旅で感じたシステムの改善策等をまとめたレポートを作成する。また、確実な日程は全く決まっていなが、カフェ等の経営をしてみたいと思っているので、その際にも生かせると思う。

## ■ 本プログラムでの渡航を考えている学生へのアドバイス

想定外のことが起きたり、思ったよりも時間がなかったりといったことが多いと思うので、自分の後悔でもあるが、日本にいる内に SNS 等(facebook,Linkedin etc.)を通して多くの現地在住者、興味のある分野と関わりがある人とアポイントメントをとっておくことでただの旅行者とは違う経験ができたり、世間のトラブルに流されにくい渡航ができると思う。

## ■ 主な奨学金の使途

\*宿泊費

\*渡航費、現地交通費

\*入場料

\*海外旅行保険料 など